

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 209

差別の無い社会をめざして

このコーナーでは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

武装していない黒人のデモ行進に対し、白人の警官隊が発砲。69人が死亡し、186人が負傷しました。これは、1960年3月21日に南アフリカのシャープビルという町で起きた痛ましい事件です。当時の南アフリカ国内では、厳しい人種隔離政策（アパルトヘイト）が黒人たちを苦しめていました。その現状を変えようとした勇気ある人々たちに向けて、警官隊が無差別に発砲したのです。

この惨事が契機となり、国

連は1966年の総会において、3月21日を『国際人種差別撤廃デー』としました。今では、毎年この日に世界中で、差別撤廃を求める運動が実施されています。この機会に、皆さんも差別について考えてみてはいかがでしょうか。

差別の無い明るい社会の実現を誰もが望んでいます。しかし、残念ながら私たちの周りには、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題がいまだに存在しています。差別するつもりは無くても、私た

ちは配慮の足りない言葉をまるで銃弾のように発し、知らないうちに相手を傷つけているかもしれません。

アパルトヘイトの撤廃に生涯を捧げ、昨年12月に永眠したネルソン・マンデラ氏は、「生まれながらにして、肌の色や出身、宗教を理由に他人を憎む人は誰もいない。憎しみは後から学ぶものであり、もし憎しみを学ぶことができたら、愛することも教えられるはずだ。愛はその反対の感情よりも、人にとって自然になじむものだから」と語っています。相手の立場になって考え、行動することが差別をなくす第一歩です。誰もが幸せに暮らせる社会をめざして、あなたもできることから始めてみませんか。

『カプトガニの館』が新築移転

生きた化石『カプトガニ』の常設展示館として木須町多々良海岸にある『カプトガニの館』が新築移転し、2月10日、現地で開館式があり、牧島のカプトガニとホテルを育てる会など関係者約40人が出席し、開館を祝いました。今回の新築移転は、旧館が

手狭だったことから国の過疎地域等自立活性化推進交付金1000万円を活用して行ったもので、総事業費は約1080万円、床面積は旧館の約2倍の92・625㎡で、展示スペースのほか研修室も備え、一度に多くの人が参観できるようにになりました。



↑広く機能的な展示場に生まれ変わり、約50㎡移転した伊万里湾カプトガニの館

郷土の文化財

会に行ける焼き物⑫

そのつけふようで からようもんざら 染付芙蓉手花鳥文皿

中国磁器に代わる古伊万里

古伊万里は、中国が明から清へ王朝交代し、海上交易が禁止されてから、国内で中国磁器の代用品として需要が飛躍的に高まりました。

染付芙蓉手花鳥文皿は、1670～1680年代に作られた染付の古伊万里で、口径39・0㎝、底径17・8㎝、高さ8・0㎝の大皿です。

この皿のように、皿の内面の外周部が区切られた皿は、芙蓉の花のように見えるため芙蓉手と呼ばれます。

この皿は、外周部の各窓に花を配し、中央に花に囲まれた2対の鳥が描かれています。空白の少ない構図になつているため、単色



◆問合先 生涯学習課
(☎) 23 3186

の染付ながら華やかさをうかがわせる作品になっています。

染付芙蓉手花鳥文皿は、伊万里・鍋島ギヤラリーで開催中の『鍋島十傑と古伊万里展』で、6月1日まで公開しています。

開館時間や入館料などについては、伊万里・鍋島ギヤラリー(☎) 22267)まで問い合わせてください。